第１回邑楽南中学校学校運営協議会　協議結果

■日　時　令和８年５月１４日（木）　１３：２５～１５：０５

■場　所　邑楽南中学校図書室

■参加者　運営委員　　久保田、深澤、橋本、三ツ村、猿橋、小島、久保田、髙橋、櫻井、河内
　　邑楽南中学校　星野教頭

■概　要

１　開会後、邑楽町学校運営協議会の設置等に関する規則に基づき、会長・副会長が選出されるまで学校側で進行することを確認した。その後、各委員への委嘱状交付、教育委員会あいさつ、校長あいさつ、委員自己紹介を行った。

２　会長及び副会長の選出について協議した。学校運営協議会は、従来の学校評議員会と異なり、学校が一方的に説明する場ではなく、地域と学校が共に学校づくりを考える場であることから、学校外の委員が会長を務めることが望ましいとの意見が出された。協議の結果、会長に深澤委員、副会長に小島委員を選出した。

３　学校運営協議会制度の概要について、校長より説明があった。学校運営協議会は、保護者や地域の方が学校運営に参画し、学校・家庭・地域が連携して子どもたちの成長を支えるための組織であることを確認した。また、校長が作成する学校運営の基本方針の承認、学校運営への意見・助言、地域とともに子どもを育てる体制づくり、守秘義務について確認した。

４　令和８年度学校運営の基本方針について、校長より学校経営要覧及びグランドデザインをもとに説明があった。学校経営理念「学校は宝の宝庫だ　生徒・教師・保護者・地域すべての人が輝く学校づくり」を共有し、生徒・教職員・保護者・地域のそれぞれの価値やよさを発掘し、輝かせていく学校づくりを進めることを確認した。協議の結果、令和８年度学校運営の基本方針を承認した。

５　学校経営の重点として、子どもを主語にした授業改善、協働による組織づくり、家庭・地域との連携推進、誰一人取り残さない生徒支援と安全の確保について説明があった。特に、教職員が小さな違和感を共有し、組織的に対応すること、弱音を吐ける職場づくりを進めること、生成ＡＩやＩＣＴを子どもの学びを深める視点で活用していくことを確認した。

６　学校経営要覧について、教育課程、組織編成、学校予算、施設管理、年間行事予定等の説明があった。北校舎トイレの洋式化改修、職員室機器や教室用パソコンの更新予定についても説明があった。また、体育祭、合唱コンクール、授業参観等の機会に、委員が学校を訪問し、日常の生徒の様子や学校の空気を見て意見を述べることが確認された。

７　学校の現状について、校長より説明があった。生徒は挨拶、清掃、授業等に真面目に取り組んでいる一方、ＳＮＳ上のやり取り、物の紛失や貸し借り、人間関係等に関する見えにくい

課題もあることが共有された。学校としては、情報モラル指導、聞き取り、日常的な声かけを継続し、大きな問題になる前の小さな変化を職員間で共有していくことを確認した。

８　教職員の業務量管理・健康確保措置について説明があった。町教育委員会の実施計画を踏まえ、時間外勤務の縮減、休憩時間の確保、有給休暇取得、ストレスチェックの活用等を進める必要があることを確認した。４月時点で時間外勤務が４５時間を超える教職員が一定数いることも共有され、年度末に結果を報告する予定であることが示された。

９　学校評価について、教頭より説明があった。昨年度の評価では、学習理解、学校生活の楽しさ、いじめへの組織的対応、キャリア教育等で一定の成果が見られた。一方で、生徒の主体性や自立、生活習慣や睡眠時間の確保については、保護者評価を含め課題があることを確認した。今年度は、新たな学校経営理念及び学校運営協議会の設置を踏まえ、評価項目を見直すことが説明された。

１０　地域連携について意見交換を行った。委員から、授業時数が限られる中で地域との連携をどのように進めるか、小学校で行われている農業体験、昔遊び、ミシン支援、地域行事等の取組を中学校段階へどうつなげるかについて意見が出された。学校からは、新たな単元を増やすことは難しいが、既存の教育活動の中で地域人材に話を聞く、協力を得るなどの形で連携を進めたいとの説明があった。

１１　地域コーディネーターの役割について意見交換を行った。小学校と中学校の学校運営協議会が別々に開催される中で、それぞれの協議内容や地域連携の取組をつなぎ、地域全体で子どもを育てる視点を共有していく必要があることを確認した。また、地域のキーパーソンとの橋渡しについても、今後の重要な役割として確認した。

１２　令和８年度の今後の予定について説明があった。第２回協議会は１１月１１日、第３回協議会は３月４日を予定し、８月５日に学校運営協議会委員研修会が予定されていることを確認した。委員からは会議回数が少ないのではないかとの意見もあり、必要に応じて追加開催や情報共有の機会を設けることも検討することとした。